

## I. 略 歴

年 月	事 項
1974年3月	東京大学文学部言語学専修課程卒業（文学士）
1974年4月	同 大学院人文科学研究科言語学専攻修士課程入学
1976年3月	同 修了（文学修士）
1976年4月	東京大学大学院人文科学研究科言語学専攻博士課程入学辞退
1976年4月	東京大学文学部助手（言語学研究室）
1976年8月	同 休職（海外研究のため）～79年8月（休職期限につき退職）
1976年9月	米国ペンシルヴェニア大学大学院東洋学科博士課程入学
1982年12月	同 修了（哲学博士）
1983年4月	四天王寺国際仏教大学文学部助教授～89年3月
1989年4月	東京大学文学部助教授（言語学）
1994年6月	同 教授
1995年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授（言語学）

## II. 研究活動

### 1. 概 要

インド・ヨーロッパ語の中でも特に中央アジアからの新資料の発見と解明により近年急速に進展を見た分野であるイラン語派について、古・中期イラン語を中心に比較・歴史言語学的に研究する。

特に、中期イラン語の中でも、中国西北部のコータンや敦煌から出土した資料が豊富でありながら、現在も依然として解明が進行中のコータン（・サカ）語を主たる研究対象とする。

数多いコータン語資料の中でも言語学的価値が高いのに比して比較的研究が遅れている非宗教文書を、地域と時代を共にする他言語の資料（ソグド語・トカラ語・チベット語・古代トルコ語など）と比較しつつ研究する。

### 2. 主要業績

## 著書

1. Khotanese Official Documents of the Tenth Century A.D., University Microfilms International, Ann Arbor, Mich. (#83-07332), xii + 338pp. [1983.5]

## 論文

2. 「音法則の発見」, 『言語』6月号, 40-47頁 [1983.6]
3. ‘The Khotanese Documents of the Pelliot Manuscript P 2786’, *Proceedings of the Thirty-First International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa*, Vol. II, Tokyo 1984, pp. 987-989 [1984.3]
4. 「イラン学の現段階」, 『四天王寺国際仏教大学文学部紀要』, 第16号, 27-102頁 [1984.3]
5. 「中央アジアのイラン語仏典」, 『四天王寺』第518号, 34-43頁 [1984.4]; (『昭和58年度第5回日本仏教文化研究・論集』, 101-110頁 [1985.3] に再録)
6. 「イラン語派」, 「オセツト語」, 「クルド語」, 「パシュト語」, 「パフラビー語」, 「パフラビー文字」, 「バルーチ語」, 「ペルシア語」, 『大百科事典』, 平凡社 [1984.11 ~ 1985.6]
7. 「Hagaṣṭa. sūlī」, 『四天王寺国際仏教大学文学部紀要』, 第17号, 1-22頁 [1985.6]
8. 「コータン語文献概説」, 『講座敦煌・第6巻・敦煌胡語文献』, 101-140頁, 大東出版社 [1985.8]
9. 書評 「Ilya Gershevitch, *Philologia Iranica*」, 『言語研究』, 第89号, 114-120頁 [1986.3]
10. ‘Some Problems of the Khotanese Documents’, *Studia Grammatica Iranica. Festschrift für Helmut Humbach*, München, Kitzinger, pp. 227-244 [1986.11]
11. 訃報 「ドレスデン教授 (Mark J. Dresden, 1911.4.26-1986.8.16)」, 『インド学仏教学研究』, 第35巻, 843-846頁 [1987.3]
12. 「Pahlavi 刻銘について」(東野治之「法隆寺献納宝物香木の銘文と古代の香料貿易」への補説), 『MUSEUM』(東京国立博物館美術誌) 第433号, 16-17頁 [1987.4]; (東野治之『遣唐使と正倉院』184-185頁, 岩波 [1992.7] に再録)
13. ‘avaṃdāya’, ‘aścā’, ‘āra-’, ‘o’, ‘tcaṃgalai’, ‘naṣphašta’, ‘\*patta’, ‘\*pabauna’, ‘pasakāṣṭa’, ‘\*baraucāṃ’, ‘baṣṭa-’, ‘bastauda’, ‘\*raiṣṭai’, ‘śahvaista’, ‘\*hagaiṣṭa’, ‘hadra-vyanaja’, ‘hays-’, R. E. Emmerick, P. O. Skjærvø eds. *Studies in the Vocabulary of Khotanese*, II, (= Österreichische Akademie der Wissenschaften, Philos.-hist. Klasse. Sitzungsberichte, 458. Band), [1987.5]
14. 「アヴェスタ語」, 『言語学大辞典』, 第1巻, 122-132頁, 三省堂 [1988.3]
15. Review of ‘R. E. Emmerick, *The Tumshuqese Karmavācanā Text*’, *KRATYLOS* Jahrgang 32, pp. 176-177, Wiesbaden [1988.3]
16. 「西域旅行者用サンスクリット=コータン語会話練習帳」, 『西南アジア研究』, 第28巻, 53-82頁 [1988.5]

17. ‘Yasna 44’, *Tokyo University Linguistics Papers* ’88, pp. 87-124 [1988.12]
18. 「サカ語」, 『言語学大辞典』, 第2巻, 16-27頁, 三省堂 [1989.9]
19. 「中期ベルシア語」, 同 887-892頁, 三省堂 [1989.9]
20. 「コートン写本学」, 『しにか』 1月号, 39-46頁 [1991.1]
21. ‘Two Khotanese Fragments concerning Thyai Paḍä-tsā’, *Tokyo University Linguistics Papers* 11, pp. 101-120 [1991.3]
22. ‘Khotanese Vowel Phonology’, 『ケルト研究』 4, pp. 86-87 [1991.12]
23. ‘Some Khotanese Letters in Verse’, *Tokyo University Linguistics Papers* 12, pp. 59-80 [1991.12]
24. 「パシュトー語」, 「バローチー語」, 『南アジアを知る辞典』, 平凡社 [1992.10]
25. ‘More Khotanese Letters and Verses’, *Tokyo University Linguistics Papers* 13, pp. 145-184 [1993.7]
26. ‘Miscellaneous Khotanese Documents from the Pelliot Collection’, *Tokyo University Linguistics Papers* 14, pp. 229-257 [1995.3]
27. ‘Deśanā’, Ehsan Yarshater ed. *Encyclopaedia Iranica*, Volume VII, Fasc. 3, pp. 320-321, Costa Mesa, CA, Mazda Publishers [1995.4]
28. 「インドの言語学」, 『言語学大辞典』, 第6巻(術語編), 三省堂 [1995.9]
29. ‘Did Late Khotanese have a three vowel system?’, *Proceedings of the Second European Conference of Iranian Studies*, Roma, IsMEO, 1995, [in the press]
30. ‘Textual Sources for Buddhism in Khotan’, John R. Mcrae and Jan Nattier eds., *Buddhism across Boundaries : Proceedings of the Conference at the Hsi Lai University 1993*, Taipei 1995 [in the press]
31. ‘The Khotanese in Dunhuang’, Alfredo Cadonna ed., *Cina e Iran*, Firenze, Leo S. Olschki Editore, 1995 [in the press]
32. ‘Review of Ronald E. Emmerick and Margarita I Vorob’ëva-Desjatovskaja, *Saka Documents VII: the St. Petersburg Collections*’, *Indo-Iranian Journal* Vol. 38, 1995 [in the press]

### 3. その他の研究活動

・国際学会での発表

1983年8月 第31回「国際アジア・北アフリカ人文科学者会議」(東京・京都)に出席。敦煌・吐魯番部会にて、“The Khotanese Documents of the Pelliot Manuscript P 2786”と題する発表を行って、仏教写本と異なった非宗教文書の写本のテキスト・クリティークの原則を論じた。

1988年10月 “Documents et Archives Provenant de l’Asie Centrale : Colloque Franco-Japonais”と題する国際学会に出席し、“A Sanskrit-Khotanese conversation manual for Central Asian travelers”と題する発表を行って、ペリオ蒐集に属するサン

スクリット=コータン語の2言語写本に基づいてコータン語の音韻論について論じた。

1990年8月 第33回国際アジア・北アフリカ研究会議(カナダ・トロント大学)に出席。中央アジア部会において、“A new look at the Khotanese documents”と題する発表をして、言語および文字的特徴に基づいたコータン語写本の年代論を論じた。

1991年10月 第2回ヨーロッパ・イラン学会(Societas Iranologica Europaea)(ドイツ・バンベルク大学)に出席。“Did late Khotanese have a three vowel system?”と題する発表をして、後期コータン語の母音音素組織を論じた。

1993年1月 “Buddhism across Boundaries : The Sources of Chinese Buddhism”と題する国際会議(米国 Los Angeles 市, Hsi Lai university)に招待され、“Buddhism in Khotan”と題する発表をして、漢文資料とコータン語資料を対比させてコータン語の仏教文献について論じた。

1994年11月 イタリアの Giorgio Cini 財団主催の *Cina e Iran* (中国とイラン)と題する国際学会に招待され、“The Khotanese in Dunhuang”と題する研究発表を行って、9-10世紀の敦煌におけるコータン人住民の存在を示唆する文書資料について論じた。

#### ・海外調査

1989年8-9月 三菱財団人文科学助成金の補助を得て、「中央アジア出土法律文書の研究 - コータン語・ソグド語・チベット語文献を中心として」(研究代表者)のテーマで、大英図書館東洋部(ロンドン)、インド・オフィス図書館(同)、フランス国立図書館(パリ)、スウェーデン民族学博物館(ストックホルム)に所蔵されるスタイン・ペリオ・ヘディン蒐集のコータン語写本を調査。

1990年9月 稲盛財団助成金の補助を得て、「コータン・サカ語写本の現地調査」(研究代表者)のテーマで、米国議会図書館(ワシントン)に所蔵されるクロスビー蒐集及びイエール大学に所蔵されるハンティントン蒐集のコータン語写本を調査。

1991年9-10月 稲盛財団助成金の補助を得て(前年からの継続)、ドイツ国立民俗学博物館(ミュンヘン)に所蔵されるフランケ蒐集及びソ連科学アカデミー東洋学研究所(サンクトペテルブルグ=旧レニングラード)に所蔵されるペトロフスキー蒐集のコータン語写本を調査。

1992年9月 文部省科学研究費(国際学術研究・共同研究)の補助により、インド・オフィス図書館(ロンドン)に所蔵されるチベット語=コータン語の2言語文書を調査。

1993年9月 文部省科学研究費(国際学術研究・共同研究)の補助により、ロシア科学アカデミー東洋学研究所(サンクトペテルブルグ)に所蔵されるペトロフスキー蒐集のコータン語写本を調査。

1994年10月 文部省科学研究費(国際学術研究・共同研究)の補助により、ロシ

ア科学アカデミー東洋学研究所(サンクトペテルブルグ)に所蔵されるペトロフスキー蒐集のコータン語写本を調査。

・国内の研究会での発表

1989年7月 『内陸アジア出土古文献研究会』(東洋文庫)にて「コータン語研究の現段階」

1991年6月 『内陸アジア出土古文献研究会』(東洋文庫)にて「敦煌出土の2・3のコータン語写本について」

1991年11月 『東方学会第41回全国会員総会』の第一部会「敦煌・吐魯番研究」にて「コータン語写本の分類について」

1994年12月 『内陸アジア出土古文献研究会』(東大言語に会場を移動)にて「在ロシアのコータン語写本及び国際会議『中国とイラン』」と題する発表。

・研究会主催

『歴史言語学の集い』(文学部言語学研究室・隔月)

『内陸アジア出土古文献研究会』(94年11月より会場を東洋文庫から東京大学文学部言語学研究室に移して、ほぼ毎月開催)

・文部省科学研究費プロジェクト

1988年4月~1989年3月 「パーソナル・コンピュータによるコータン語文脈索引の作成」(一般研究C・研究代表者)

1991年4月~1993年3月 「マイクロフィルム資料によるコータン語の文字史的研究」(一般研究C・研究代表者)

1992年4月~1993年3月 「トルキスタン出土古チベット語文書及び木簡の研究」(国際学術研究・共同研究・研究分担者)

1993年4月~1994年3月 「イラン語資料の『電子テキスト』作成」(一般研究C・研究代表者)

1994年4月~1995年3月 「中期ペルシア語資料の『電子テキスト』作成」(一般研究C・研究代表者)

1993年4月~1996年3月 「日本・ロシア共同による中央アジア出土中世イラン語文書の研究」(国際学術研究・共同研究・研究代表者)

### III. 教育活動(過去2年間)

1994年度

・学部講義

「古代ペルシア語入門」(言語学特殊講義・冬学期・2単位)

楔形文字の解読の端緒となったアケメネス朝ペルシア(6-4c, BC)の代表的な碑文を、最新の研究である Rüdiger Schmitt, *The Bisitun Inscriptions of Darius the Great. Old Persian Text*, London 1991 に従って読み、言語学的な解説を行った。

「比較言語学入門」(言語学特殊講義・夏学期・2単位)

教養課程第3学期に開講された入門的講義。比較・歴史言語学の原理と方法を扱った。

「比較言語学」(夏冬学期・各2単位)

ロマンス諸語の歴史を材料に、言語研究における通時的研究と共時的研究の相互関係を扱った W. von Wartburg, *Einführung in die Sprachwissenschaft* の最初の部分を演習形式で扱った。

「古・中期イラン語研究」(印度語学概論第2部・大学院と共通・通年4単位)

前半はニヤ・ローラン出土のカローシュティ文字で書かれた中期インド語の文書を読み、後半はクチャ出土のサンスクリット文書を読んだ。

・学部演習

「印欧語比較研究」(言語学演習・大学院と共通・通年4単位)

J. Kuryłowicz, *L'apophonie en indo-européen* から印欧語の母音交替における「零階梯」の問題を扱った。

・大学院演習

「言語学演習」(通年4単位)

言語学科教官全員の出席のもとで行われる。修士論文執筆中のものの論文指導を含む修士課程・博士課程の大学院生及び外国人研究生による研究発表。

## 1995年度

・学部講義

「比較言語学」(夏冬学期・各2単位)

A. Martinet, *Economie des changements phonétiques* を材料に、言語変化の一般理論を扱う。

「トカラ語研究」(印度語学概論第2部・大学院と共通・通年4単位)

G.-J. Pinault, *Introduction au tokharien*, Paris 1989 にもとづいて、中央アジア出土の印欧語の一つであるトカラ語の解読・研究史、文法の解説、テキストの読解を行なう。

・学部演習

「印欧語比較研究」(言語学演習・大学院と共通・通年4単位)

C. Watkins, *Geschichte der indogermanischen Verbalflexion*, Heidelberg 1969 にもとづいて、印欧語の動詞活用の起源の問題を扱う。

・大学院演習

「言語学演習」(通年4単位)

言語学科教官全員の出席のもとで行われる。修士論文執筆中のものの論文指導を含む修士課程・博士課程の大学院生及び外国人研究生による研究発表。

## 卒業論文審査

1994年3月 5編

1995年3月 6編

## 学位論文審査

### 修士論文

1994年3月

入江 浩司 「現代アイスランド語の相互行為を表わす -st 形の動詞について」  
(主査)

大場 美穂子 「日本語の『助詞の省略』について」 (副査)

土井 玄 「質問と応答の情報構造」 (副査)

西岡 敏 「琉歌・組踊語における動詞・助動詞の活用」 (副査)

星 泉 「現代チベット語ラサ方言の動詞述語の考察」 (副査)

1995年3月

磯村 雨月 「ルーマニア語の se 動詞の意味と用法について」 (主査)

大方 グレイス利江 「ポルトガル語の『破壊』を表わす動詞の意味 —日本語と対照して —」

野島 本泰 「ブヌン語(南部方言)における動詞の構造」 (副査)

吉田 浩美 「バスク語アスペイティア方言の単純形について」 (副査)

### 博士論文

1994年5月

下田 正弘 「大乘涅槃経の研究」 (副査)

## IV. 主要学内行政(過去2年間)

### 全学委員

- ・入試実施委員(94年度～継続中)

## V. 学外での主たる活動(過去2年間)

### 他大学講師

- ・高知女子大学文学部非常勤講師(言語学・94年度)
- ・大阪外国語大学非常勤講師(言語学・94年度)